

各プログラム詳細について

○特別講演

●6月21日(土) 19:30-20:40 @松の間

人を動かすのは「夢中」だった

インタープリテーションとフロー理論が生む高付加価値

講師 木村雄志（きむら ゆうじ）／Activity Research代表

なぜ、人はツアーに心を動かされ、また訪れたいと思うのか――。

その鍵は「夢中になる体験」、すなわち“フロー状態”にあります。

フローとは、時間を忘れるほど没頭し、自我も薄れるような集中状態のこと。

この講演では、観光やインタープリテーションの現場において、こうしたフロー状態がどのように高い満足感や再訪意向につながるかを、心理学的視点と実際のデータに基づいて解説します。

特に、インタープリテーションにおいては、参加者の知的好奇心やスキルに合わせて情報を届けることが、知的なフローを誘発する重要な手がかりになります。

さらに、「寒さ」「緊張」「分かりにくい説明」といったフローブロッカー（阻害要因）を取り除き、「物語性」「選択の自由」「一体感」などのフロートリガー（誘発要因）を設計することで、夢中になる瞬間を意図的に生み出すことができます。

“夢中”が生まれた体験は、単なる楽しさを超え、顧客の心に深く残る「価値ある旅」となります。

講演では、その設計のヒントを、観光現場の実例や最新研究とともにお届けします。

○キーノート・セッション

●6月22日(日) 10:15-11:30 @松の間

文化遺産のインタープリテーション文化と自然を超えて

講師 岡田 真弓（おかだ まゆみ）／ 北海道大学国際広報メディア・観光学院
／観光学高等研究センター准教授

皆様、文化遺産と聞くと何を思い浮かべますか？

世界遺産？国宝？遺跡？あるいは歴史都市でしょうか？

また、文化遺産のインタープリテーションのテーマとなりうるのは、歴史的
あるいは文化的価値だけなのでしょうか。

近年の〈文化遺産〉概念のひろがりインタープリテーションの関係に着目
しながら、文化と自然の二元論を超えたインタープリテーションの可能性を考えて
みたいと思います。

○研究発表・実践報告

●6月22日(日)13:30-14:00 @松の間

①石垣島で「IP全体計画」作ってみた

大堀 健司／エコツアーふくみみ

2024年度、石垣島の平久保半島でIP全体計画を作成した。観光開発が進んでいない農村地域に必要なIP計画とは何かを課題に、地域の方たちと話し合いを重ねながらIP計画を理解してもらい、手探りで地域に必要な独自のIP計画を紡ぎ出すことに努力した。

②ジュニア・インタープリター養成講座

井上 博夫／コスモ環境教育ラボ／国営讃岐まんのう公園インタープリター
将来のインタープリター育成事業として、2023年度より小学4年生～中学3年生までを対象にしたジュニアインタープリター養成講座を開催。4月～翌年3月まで1回/月、延べ12回のうち10回以上参加を条件にジュニアインタープリターとして認定。新年度からさぬきの森や自然生態園をフィールドにイベントや自己研鑽のための自由な活動が許可されるというもの。現在、3期生5名が学んでいます。1期生4名の研修内容を端的にご紹介します。

③人の歴史をこえた物語づくり：

考古系学芸員が地球の歴史も意識しだすとどうなるか？

橋詰 潤／新潟県立歴史博物館

各地の特別な歴史を伝えるのをこえ、その歴史がなぜそこにありその痕跡が残されたのかまで目を向けると、さらに価値が付与され魅力的な地域の物語が出来上がることがあります。ジオパークなどを通じて私がこれまでに触れた事例や、私が普段取り組んでいて共有できそうなことなど、お伝えできればと考えています。

④歴史の複層をどうIPに生かしていくか

～ナバホ・ネイションで気づいた複数の視点～

鹿谷 麻タノしかたに自然案内

2024年日米IP研修にてナバホ・ネイションでのIPを体験しました。そこから、先住民族の歴史文化を今につなげる努力や多様な立場・視点のあり方を学び、沖縄の歴史文化と自然を伝えることへの共通点を感じました。

私が受け取ったメッセージをみなさんに伝え、IPにおける意識の枠を広げることを試みます。

●6月22日(日)14:00-14:25 @松の間

⑤“TOREトレーニングの場”がガイドにとって

大切なプロセスだと気づくまで

姥 千恵子ノ桜島ジオサルク

2021年6月から始まり、2025年2月まで全37回の有料オンラインツアー(日本ジオツーリズム協会と世界仮想旅行社共催)が実施され、全国の様々な地域のガイドが登壇した。私はこのツアーを造成するところから、ツアー後に別枠で開催されるTOREトレーニングの勉強会に参加した。インタープリテーションの概念を学ぶだけで終わらず、TOREの理念に基づきトレーニングを重ねることが、ガイドの自信となり実力をステップアップする大切な場となったことを報告したい。

⑥薬草文化のインタープリテーション

嵯峨 創平ノヤマノカゼ舎ノ京都大学大学院

岐阜-滋賀両県の境に位置する伊吹山は、古来から霊山として敬われ薬草の宝庫としても名高い。伊吹山東麓の揖斐川町春日地域に伝わる薬草文化の伝統と現状、保全方策や社会実装のための課題を整理した研究をベースに、現代人の薬草に対する関心や都市部の動向をふまえて、日本の薬草文化を後世に伝えるインタープリテーションの方法や役割について考察と提案を行います。

⑦現地から中継『山の詩人尾崎喜八が書いた詩や

散文から読み解く「ふじみ分水の森」』

川村 悦子／やまねこworks環境共育事務所

元伯爵渡辺昭氏の厚意で長野県諏訪郡富士見村にある別荘の一部を借りて7年を過ごした、尾崎喜八。その間に高原、溪谷、山々を歩き、観察し、鳥をはじめとする詩や散文を残しました。豊かな自然を次の世代につなぐために、現在と照らし合わせを進めています。

⑧『夜のやんばるに響く生き物の声と輝くタブレットの光

― “見えない自然”を伝えるナイトツアーの工夫』

妹尾 望／やんばる案内人 Tida-Smile

沖縄本島北部・やんばる地域は、固有種や希少種が数多く生息することから、2021年に世界自然遺産に登録された、生物多様性の豊かな森です。その夜の森を歩くナイトツアーでは、ミミズクやカエル、昆虫などの鳴き声が響き、想像以上に賑やかな自然が広がります。しかし、真っ暗な夜の森では、鳴き声は聞こえても姿が見えない生き物も多く、観察が難しいこともあります。そこで、音の世界を視覚的に補完する手段としてタブレットを活用した、インタープリテーションの工夫とその実践について紹介します。

○分科会

●6月22日(日)14:40-16:00 @松の間

分科会1 インタープリテーション全体計画をつくった “あの人たち” と話してみよう

※分科会4と同じ内容

■進行役（ファシリテーター）

津田 和英（ホールアース自然学校）

川嶋 直（日本インタープリテーション協会 理事）

■事例発表者（地域別）

【1】雲仙温泉地区（長崎県）

瀬戸 正志（雲仙観光局）

荒木 正和（雲仙観光局）

堀口 治香（雲仙観光局）

加藤奈保子（雲仙観光局）

市来 勇人（guesthouse TSUDOI）

【2】那須エリア（日光国立公園）

真山 高士（那須高原自然学校）

山崎 和幸（栃木県アウトドア事業振興会 BERGTOAD）

【3】富士山麓東海自然歩道エリア

安原 有紗（日本工営）

津田 和英（ホールアース自然学校）

この数年間、日本各地で「インタープリテーション全体計画（以下、IP全体計画）」に取り組む地域が急増しています。地域の魅力を再発見し、それを来訪者に伝える力を高めるこの計画は、観光・環境・教育など多方面で注目されています。

この分科会では、実際にIP全体計画を策定・実施してきた3つの地域の関係者が登壇し、それぞれのプロセスや学び、工夫、苦労などを共有します。

- ・先駆的に計画に取り組んだ雲仙温泉地区（長崎県）
- ・自発的な地域連携が生まれた那須エリア（日光国立公園）
- ・民間コンサルタントと自然学校が連携した富士山麓東海自然歩道エリア

これらの事例を通じて、「これから自分の地域でも計画をつくってみたい」と思っている方々が、実践者たちと直接つながり、ヒントを得る機会となることを目指します。

進行は、富士山麓エリアの計画事務局を務めた津田和英（ホールアース自然学校）と、3地域のワークショップにファシリテーターとして関わってきた川嶋直（日本インタープリテーション協会）が担当します。

堅苦しいプレゼンの会ではなく、ざっくばらんなおしゃべり感覚で、「話してみよう」「聞いてみよう」なひとときをご一緒に。

●6月22日(日)14:40-16:00 @竹の間

分科会2 「マイクロヒストリー：土地の聲に耳をすます」

高田研（日本インタープリテーション協会監事）

西村仁志（日本インタープリテーション協会理事・広島修道大学）

自然資源や地域に宿る意味や価値は、あらかじめ定まったものではなく、人と土地との関係性の中で生成されていくものです。その生成の過程に立ち会い、関わり合いながら意味を紡いでいくことは、インタープリターにとって重要な役割であり、営みでもあります。

フィールドワークや住民へのヒアリング、資料調査などを通して浮かび上がるのは、マクロな歴史の陰に隠れた多様な声と、土地に織り込まれた人々のまなざしです。こうした小さな物語（＝マイクロヒストリー）は、風景の見え方を変え、私たちと土地との関係を再構築する可能性を秘めています。

本分科会では、高田と西村による対話を起点に、参加者の皆さんとともに、「土地の聲に耳をすます」実践について考えていきます。

●6月22日(日)14:40-16:00 @梅の間

分科会3 インタープリテーションの現場で使える

絵本たち ～みんなのおすすめ絵本大募集！～

長谷川幸子（日本インタープリテーション協会理事・自然あそび企画舎）

谷口吾郎（岐阜県立森林文化アカデミー）

実は、インタープリテーションの“導入”（フッキング・そそのかし）や“まとめ”、
展示などのノンパーソナル・インタープリテーションとして、色んな場面で強力な
パートナーになってくれる絵本たち！ みんなの現場で使っている絵本を共有し
合いましょ～！

発表者からのあんな使い方、こんな使い方の紹介のあと、参加者からもおすすめ
絵本を紹介してもらいます。「おすすめ絵本がない…」という方も、もちろん聞く
だけでもOKですよ～！！

●6月22日(日)16:10-17:30 @松の間

分科会4 インタープリテーション全体計画を

つくった“あの人たち”と話してみよう

※分科会1と同じ内容

■進行役（ファシリテーター）

津田 和英（ホールアース自然学校）

川嶋 直（日本インタープリテーション協会 理事）

■事例発表者（地域別）

【1】雲仙温泉地区（長崎県）

瀬戸 正志（雲仙観光局）

荒木 正和（雲仙観光局）

堀口 治香（雲仙観光局）

加藤奈保子（雲仙観光局）

市来 勇人（guesthouse TSUDOI）

【2】那須エリア（日光国立公園）

真山 高士（那須高原自然学校）

山崎 和幸（栃木県アウトドア事業振興会 BERGTOAD）

【3】富士山麓東海自然歩道エリア

安原 有紗（日本工営）

津田 和英（ホールアース自然学校）

この数年間、日本各地で「インタープリテーション全体計画（以下、IP全体計画）」に取り組む地域が急増しています。地域の魅力を再発見し、それを来訪者に伝える力を高めるこの計画は、観光・環境・教育など多方面で注目されています。

この分科会では、実際にIP全体計画を策定・実施してきた3つの地域の関係者が登壇し、それぞれのプロセスや学び、工夫、苦労などを共有します。

- ・先駆的に計画に取り組んだ雲仙温泉地区（長崎県）
- ・自発的な地域連携が生まれた那須エリア（日光国立公園）
- ・民間コンサルタントと自然学校が連携した富士山麓東海自然歩道エリア

これらの事例を通じて、「これから自分の地域でも計画をつくってみたい」と思っている方々が、実践者たちと直接つながり、ヒントを得る機会となることを目指します。

進行は、富士山麓エリアの計画事務局を務めた津田和英（ホールアース自然学校）と、3地域のワークショップにファシリテーターとして関わってきた川嶋直（日本インタープリテーション協会）が担当します。

堅苦しいプレゼンの会ではなく、ざっくばらんなおしゃべり感覚で、「話してみよう」「聞いてみよう」なひとときをご一緒に。

●6月22日(日)16:10-17:30 @竹の間

分科会5 3Dプリンター×インタープリテーション

(自然・街並み)

谷口吾郎（岐阜県立森林文化アカデミー）

中森さつき（岐阜県立森林文化アカデミー）

鈴木康元（NPOさとやま）

手塚幸恵（小笠原レオニド株式会社）

見せたいことを作ろう！植物や動物の移り変わり、街並みや活動の変化など時を超えて感じることを形にする方法としてお手軽にできる3Dプリンターを使ったハンズオンと映像を組み合わせた方法を紹介しながら、この方法があるなら、自分だったら何を作ってみたいのかなど皆さんで考えてみませんか？

●6月22日(日)16:10-17:30 @梅の間

分科会6 実践例から学ぶ子ども対象の

インタープリテーション

増田直広（日本インタープリテーション協会理事・鶴見大学短期大学部）

長谷川幸子（日本インタープリテーション協会理事・自然あそび企画舎）

八木澤潮音（海あそび舎）

仕事柄「子どもを対象とするインタープリテーションの要点は何か？」と良く聞かれます。その際には、『Interpreting our Heritage』（1957）や『インタープリターズ・ガイドブック』（2015／2023邦訳）を紹介すると共に、「子どもの理解＋直接（本物）体験＋教材の活用」とお伝えしています。本分科会では子ども（特に未就学児）を対象とするインタープリテーションの実践例から学びたいと考えています。担当者からの事例紹介や皆さんとの情報交換を通して、全員で子ども対象のインタープリテーションの要点を導き出したいと思います。関心をお持ちの方やインタープリテーションの基礎を学びたい方、ぜひご参加ください！